

つながってつるつるすばらつ

3年 Y・Yさん

「楓くん、人とたくさん話せるようになってよかったね。」

読んだ後、私は心からそう思った。

私は家でも学校でも人と話すのが大すきだけれど、学校で初めてクラス替えがあった今年四月、友達と話せなくなってしまった。二年生まで仲良かった女子グループのうち三年生で同じクラスになったたった一人の親友が、新しく同じクラスになった子とペアでいっしょにいることが多くなり、私の入るすきがなくなってしまうからだ。別の子が私をさそってくれたが、気が合いそうになく断ってしまった。私は腹をくくって、休み時間を一人で過ごそうと決心し、無口になった。でも、やっぱりさびしくて、思い切って、お母さんにそのことを話してみた。でも、おどろいたことに、お母さんも小学校のころ同じ経験をしたという。私の気持ちをわかってくれて、女子特有のそんななやみに答えてくれる本をそっとそばに置いてくれた。読んだ次の日から、意外とすんなり学校で友達と話せるようになった。少しの間ごどくを感じていた分、話せたよろこびもひとしおだった。私も楓くんも、話せるようになったきっかけは、結局のところ、親のおかげだと思う。お母さんとの会話で、親子がつながっているのを不思議と実感できた。

楓くんの光る石はいん石かもしれないが、宇宙と関わっているとしたら、お母さんという天国ともつながっているような気がする。それは天国は空の上にあるだろうという私の勝手な思いこみによる考えだけれど、大自然にあるものは全て石で出来ているとするならば、人と石の関係も身近に思えてくる。石を通して送られるお母さんからのメッセージによって楓くんの心の中にお母さんが生きているのを感じ、私の胸はじーんと熱くなった。

私もいつか親とはなれてくらす日が来るかもしれないけれど、いつもどこかで親は自分を見守ってくれと信じて、その優しさを受け止められる人間でありたい。